

2016年度 業績概要

(対象期間：2016年3月21日～2017年3月20日)

株式会社 安川電機 (TSE6506)

2017年4月20日

1. 2016年度通期 連結決算

- 2016年度通期実績（概要・セグメント別）
- 事業セグメント別売上高構成比
- 仕向先別売上高 / 売上高構成比
- 営業利益増減要因分析（15年度⇒16年度）

2. 中期経営計画「Dash 25」の進捗・課題

- 進捗状況
- “取り組み・成果”および“課題”

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合がありますので、ご了承ください。

3. 2017年度通期 連結決算見通し

- 決算期変更および計画値の表記について
- 2017年度通期見通し（概要・セグメント別）
- 決算期変更による影響額について
- 営業利益増減要因分析（16年度⇒17年度）
- 2017年度における取り組み

4. 参考資料

- 設備投資,研究開発費,為替状況
- B/S 構造の推移
- 連結売上高・営業利益推移
- 四半期連結売上高推移
- 四半期連結受注推移
- 主要生産拠点

セグメント別事業概要

モーション コントロール (M)

【主要製品】

- ・ ACサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ パワーコンディショナ
- ・ EV用モータドライブシステム など



ACサーボ
Σ-7シリーズ



汎用インバータ
ゼロシリーズ



パワーコンディショナ
Enewell-SQL P2H



EV用モータドライブ
システム

ロボット (R)

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接, 塗装用途向け
 - FPD搬送, ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオ・メディカル用途向けロボット
- ・ 人共存形ロボット

など



新小型ロボット
MOTOMAN-GP8



人共存形ロボット HC10



バイオメディカル向け
新形双腕ロボット

システム エンジニアリング (S)

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム
- ・ 大型風力発電用電機品 など



大型風力発電用
発電機とコンバータ



連続鋳造設備



上下水道用
電気計装システム

その他

【主要製品】

- ・ 情報関連事業
- ・ 物流サービス など

1. 2016年度通期 連結決算

2016年度 通期実績（概要）

● 対前年度では円高影響により減収減益

	<u>2016年度</u> <u>実績</u>	2016年度 計画	2015年度 実績	<u>前年同期比</u>	
				増減額	増減率
売上高	<u>3,949億円</u>	3,950億円	4,113億円	<u>▲164億円</u>	<u>▲4.0%</u>
営業利益	<u>304億円</u>	310億円	367億円	<u>▲63億円</u>	<u>▲17.2%</u>
経常利益	<u>320億円</u>	315億円	358億円	<u>▲39億円</u>	<u>▲10.8%</u>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<u>204億円</u>	200億円	224億円	<u>▲20億円</u>	<u>▲8.8%</u>

[注] 表内「2016年度計画」は、2016年01月23日 3Q決算発表時の数値

2016年度 通期実績（セグメント別）

- (M)(R)は円高影響により減収減益も、
(S)は新規・既存事業ともに売上が伸張し収益性は改善

（単位：億円）

		2016年度		2016年度		2015年度		前年同期比	
		実績	利益率	計画	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売上高		3,949		3,950		4,113		▲164	▲4.0%
(M)	モーションコントロール	1,833		1,820		1875		▲43	▲2.3%
(R)	ロボット	1,400		1,400		1541		▲141	▲9.1%
(S)	システムエンジニアリング	482		495		431		+51	+11.9%
	その他	234		235		266		▲32	▲12.0%
営業利益		304	7.7%	310	7.8%	367	8.9%	▲63	▲17.2%
(M)	モーションコントロール	208	11.3%	209	11.5%	224	12.0%	▲17	▲7.4%
(R)	ロボット	103	7.3%	111	7.9%	153	9.9%	▲51	▲33.0%
(S)	システムエンジニアリング	9	1.9%	5	1.0%	▲8	▲1.8%	+17	-
	その他	▲2	▲0.8%	▲3	▲1.3%	9	3.2%	▲10	-
	消去または全社	▲13	-	▲12	-	▲11	-	▲2	-
経常利益		320	8.1%	315	8.0%	358	8.7%	▲39	▲10.8%
親会社株主に帰属する当期純利益		204	5.2%	200	5.1%	224	5.4%	▲20	▲8.8%

〔注〕表内「2016年度計画」は、2016年01月23日 3Q決算発表時の数値

2016年度 通期実績（セグメント別）

モーションコントロール

- ・ ACサーボは、中国を中心にスマートフォン関連の旺盛な設備投資需要が継続し、売上は好調
中国での現地生産効果により収益性が大幅に改善
- ・ インバータは、米国のオイル&ガス市場向け需要および、国内の太陽光パワコン向け売上が低調

ロボット

- ・ 自動車関連では国内や欧州を中心に堅調。3 C*市場向けなどの売上は、中国を中心に拡大
売上高・営業利益は円高影響により、前期比で減少

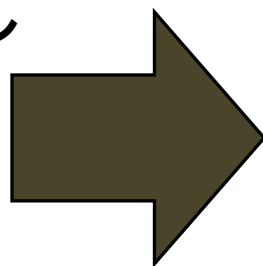
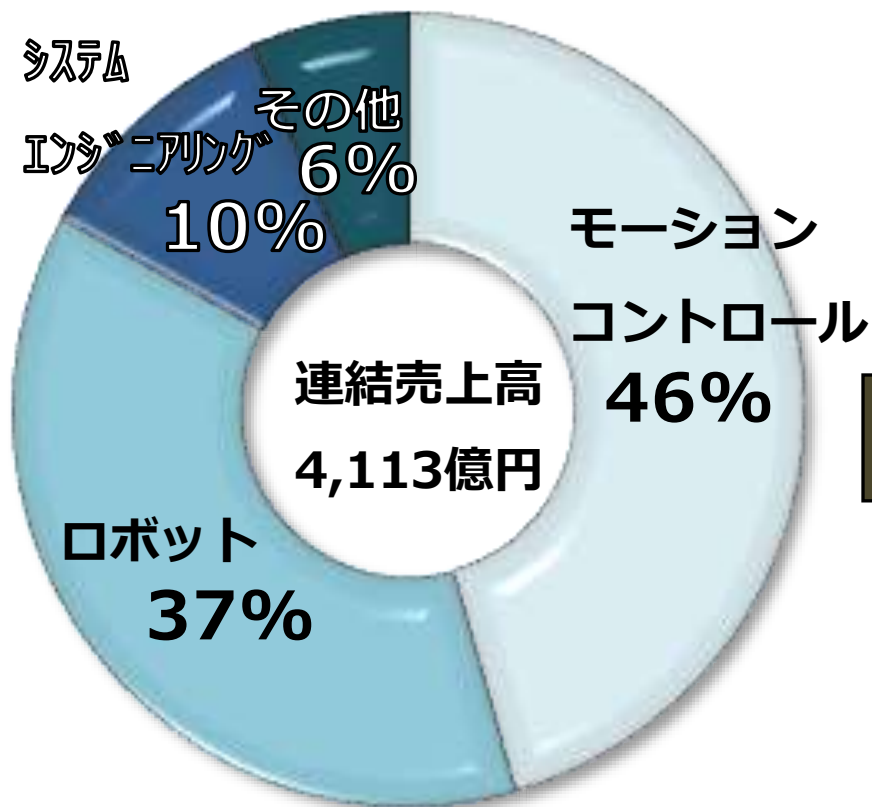
※コンピュータ・家電製品・通信機器

システムエンジニアリング

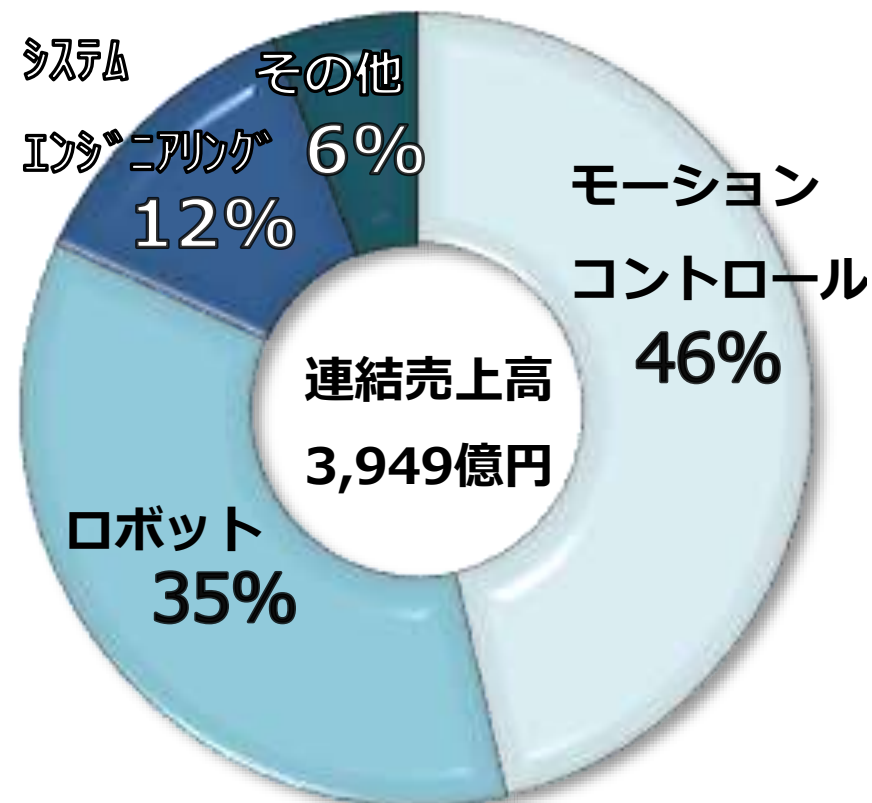
- ・ 鉄鋼プラント・社会システムにおいて、設備の更新ニーズを的確に捉え、収益性が改善
- ・ 環境・エネルギー分野は、欧州・中国を中心に大型風力発電関連の売上が伸張
- ・ 前期に対し売上高は増加、営業利益は大幅に改善し黒字化

事業セグメント別売上高構成比

2015年度



2016年度



仕向先別売上高（2015年度 → 2016年度）

● 円高影響により、海外を中心に売上高が減少

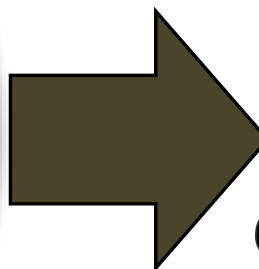
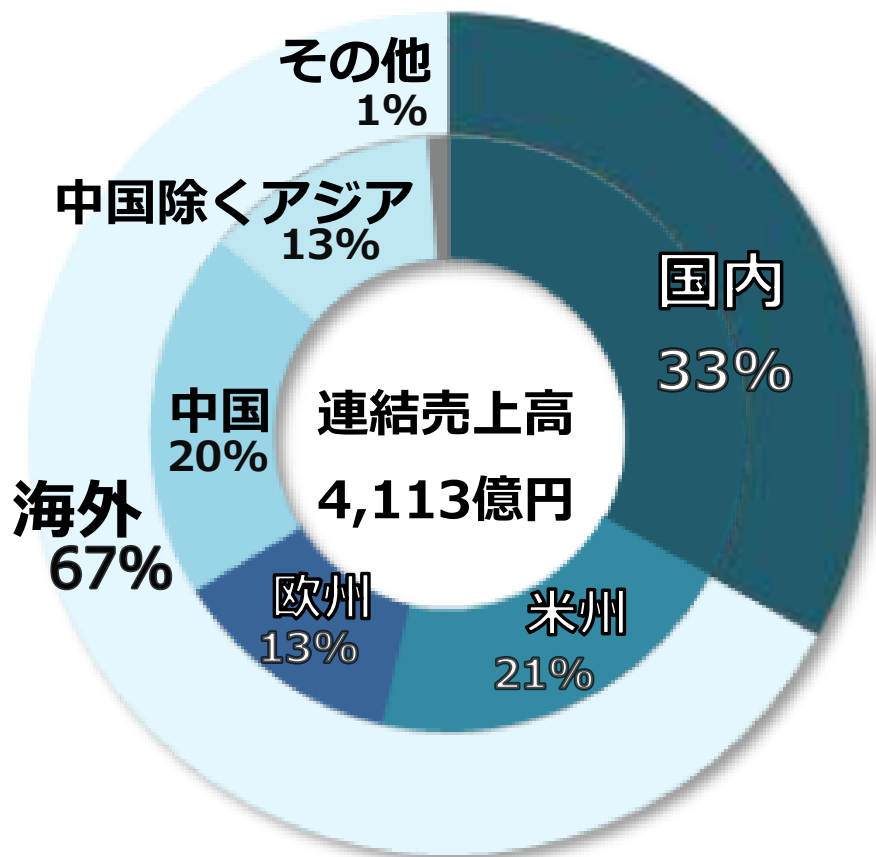
（単位：億円）

		2016年度	2015年度	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高		3,949	4,113	▲164	▲4.0%
	国内	1,342	1,355	▲13	▲1.0%
	海外	2,607	2,758	▲151	▲5.5%
	米州	747	851	▲104	▲12.2%
	欧州	507	520	▲13	▲2.5%
	中国	812	819	▲7	▲0.8%
	中国除くアジア	498	524	▲26	▲4.9%
	その他	42	44	▲2	▲3.8%

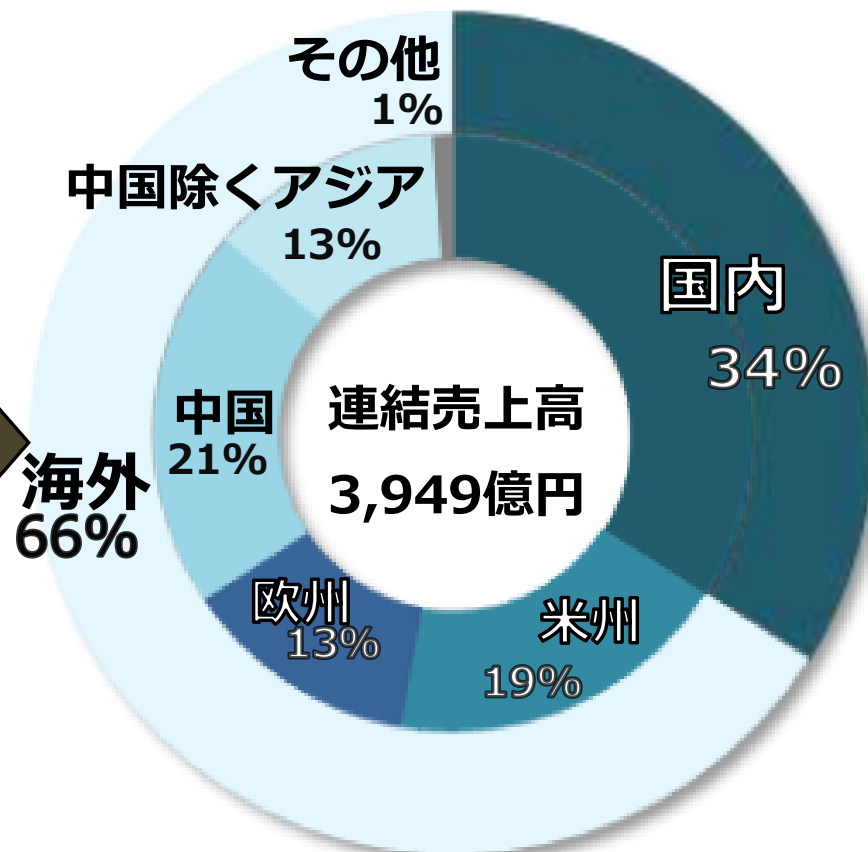
[注] その他には、南アフリカ、オーストラリア等を含む

仕向先別売上高構成比

2015年度

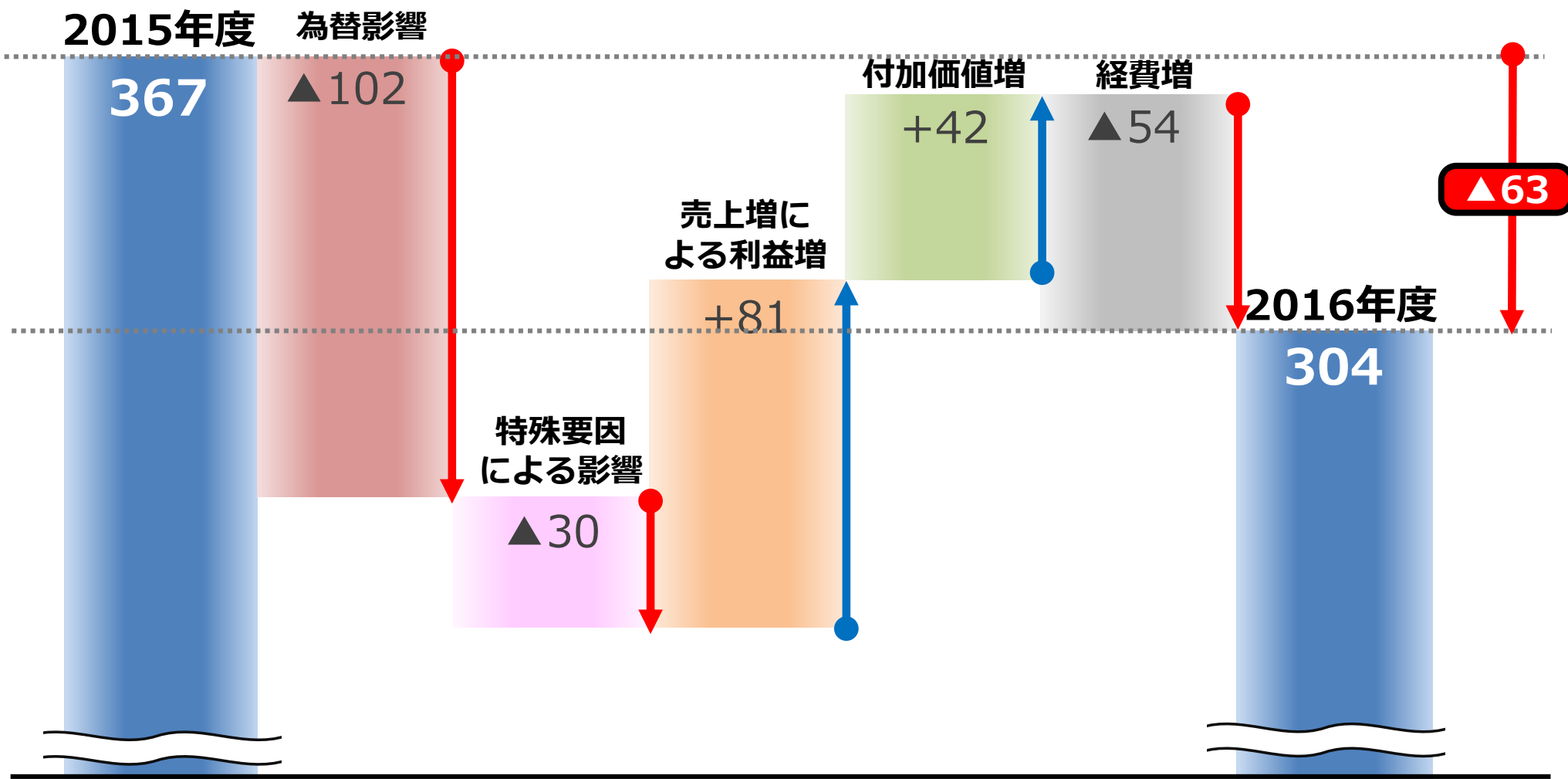


2016年度



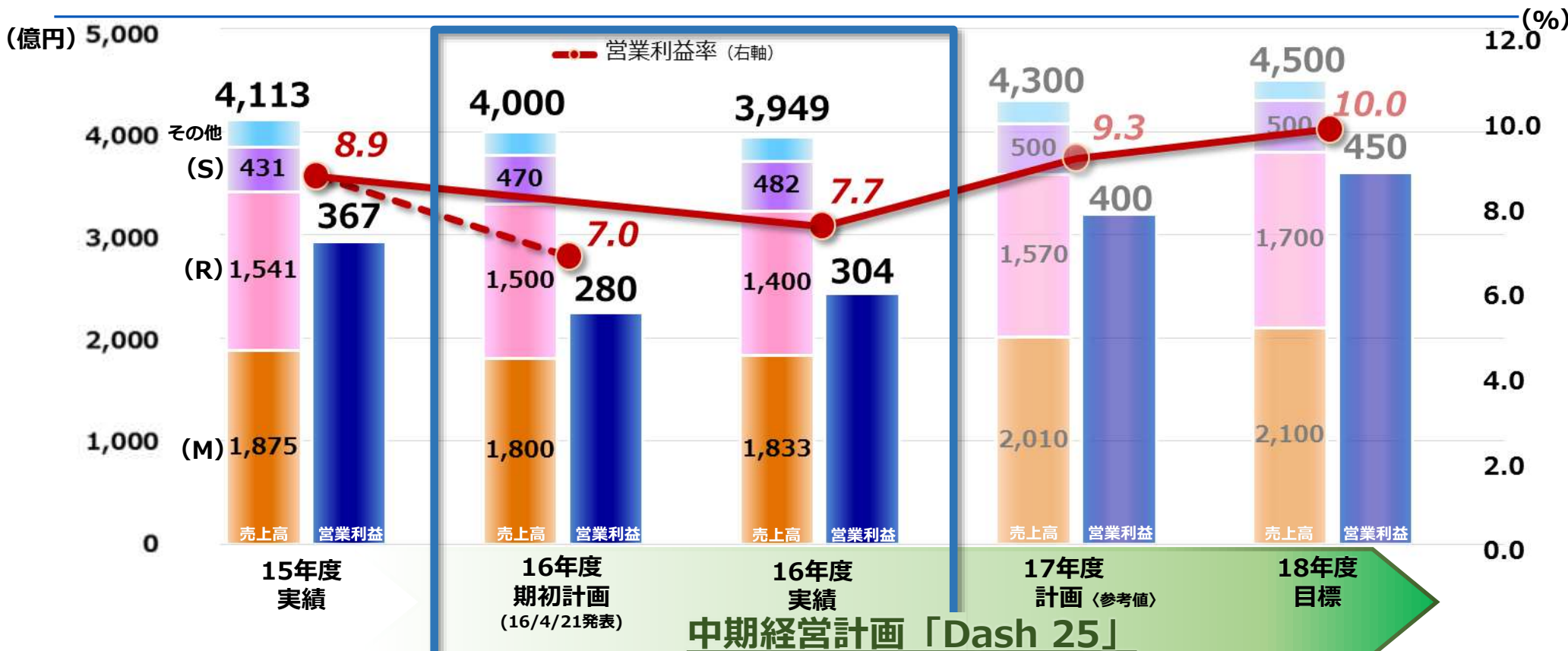
営業利益増減要因分析（2015年度 → 2016年度）

（単位：億円）



2. 中期経営計画「Dash 25」の進捗・課題

「Dash 25」1年目(2016年度) 進捗状況



為替レート	121円/ドル 133円/1-0	110円/ドル 125円/1-0	108円/ドル 119円/1-0	110円/ドル 115円/1-0	110円/ドル 125円/1-0
新規事業 売上高	203億円	194億円	201億円	250億円	400億円
ROE	12.8%	9.6%	10.7%	13%	13%以上
配当性向	23.6%	29.6%	26.1%	27%	27%以上

[注] 表記: (M) = モーションコントロール、(R) = ロボット、(S) = システムエンジニアリング

「Dash 25」1年目における“取り組み・成果”と“課題”

	取り組み・成果	課題
基本方針1 前中期計画 「Realize 100」 の成果最大化	【新製品の投入・拡販】 ・Σ-7シリーズの拡充 ・新製品インバータ「ゼロシリーズ」、 新型ロボット「16年度モデル」の投入 【生産力/販売力】 ・需要地生産の推進 → 欧州ロボット工場新設 → 中国瀋陽工場の拡張(全て18年度稼働予定)	【新製品の投入・拡販】 ・新製品インバータ「ゼロシリーズ」の拡販 ・新型ロボット「16年度モデル」の拡販 【グローバル開発】 ・パワーコンディショナ 新製品のグローバル市場投入
基本方針2 長期経営計画 「2025年ビジョン」 実現に向けた 基盤構築	【コア事業の領域拡大】 ・AI活用,IoT対応製品の拡充 ・韓国Doolim社との提携を通じた、塗装・ シーリングロボットシステム事業の強化 【新領域・新ビジネスモデルへの挑戦】 ・新体制を構築しベンチャー投資活動を本格化 【「食」の生産自動化】 ・事業部横断組織の設立による取組加速	【コア事業の領域拡大】 ・自動車関連以外のロボット市場の攻略強化 【安川版インダストリ4.0の実現】 ・実証を行う次世代生産工場の設立 【コンポーネントの強化】 ・「人協働」コンセプトによるロボット用途の開拓 ・半導体製造装置メーカーへのクリーンロボット拡販 【医療・福祉分野への展開】 ・ビジネスモデルの確立とブランドの展開
基本方針3 Clean Power事業 のコア事業化	【大型風力発電分野】 ・スイッチ社とのシナジーを最大化による事業拡大 ・船舶分野への事業展開 【EV事業】 奇瑞との合併会社設立 (2016年8月)	【大型風力発電分野】 ・発電機,インバータなどの量産体制確立 【太陽光発電用パワーコンディショナ】 ・日米以外の新興国における拡販

3. 2017年度通期 連結決算見通し

決算期変更および計画値の表記について

決算期の変更

- ・ 2017年度より**決算期**を『**3月20日**』から『**2月末日**』に変更
- ・ 決算期変更の**経過期間**となる**2017年度**は2017年3月21日～**2018年2月28日**（財務報告ベース）

【2017年度〈財務報告ベース〉】対象期間

2017年度〈財務報告ベース〉			
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
3/21～6/20	6/21～9/20	9/21～12/20	12/21～ 2/28

2017年度 計画値の表記

- ・ 『**2017年度 計画値**』は2016年度(2016年3月21日～2017年3月20日)の業績と同条件で比較を行えることを目的とし、**対象期間**を2017年3月21日～**2018年3月20日**に置き換え**参考値**として表記

【2017年度〈参考値〉】対象期間

2017年度〈参考値〉			
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
3/21～6/20	6/21～9/20	9/21～12/20	12/21～ 3/20

2017年度 通期見通し（概要）

- 好調な受注を背景に、売上高・利益ともに過去最高を計画

	<u>2017年度</u>	2016年度	<u>前年同期比</u>	
	<u>予想</u> 〈参考値〉		増減額	増減率
売上高	<u>4,300億円</u>	3,949億円	<u>+351億円</u>	<u>+8.9%</u>
営業利益	<u>400億円</u>	304億円	<u>+96億円</u>	<u>+31.5%</u>
経常利益	<u>410億円</u>	320億円	<u>+90億円</u>	<u>+28.3%</u>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<u>270億円</u>	204億円	<u>+66億円</u>	<u>+32.4%</u>

2017年度 通期見通し（セグメント別）

• (M)(R)を中心に増収増益を計画

（単位：億円）

		2017年度		2016年度		前年同期比	
		計画〈参考値〉	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売上高		4,300		3,949		+351	+8.9%
(M)	モーションコントロール	2,010		1,833		+177	+9.7%
(R)	ロボット	1,570		1,400		+170	+12.1%
(S)	システムエンジニアリング	500		482		+18	+3.7%
	その他	220		234		▲14	▲5.9%
営業利益		400	9.3%	304	7.7%	+96	+31.5%
(M)	モーションコントロール	271	13.5%	208	11.3%	+63	+30.6%
(R)	ロボット	134	8.5%	103	7.3%	+31	+30.7%
(S)	システムエンジニアリング	12	2.4%	9	1.9%	+3	+34.5%
	その他	▲3	▲1.4%	▲2	▲0.8%	▲1	-
	消去または全社	▲14	-	▲13	-	▲1	-
経常利益		410	9.5%	320	8.1%	+90	+28.3%
親会社株主に帰属する当期純利益		270	6.3%	204	5.2%	+66	+32.4%

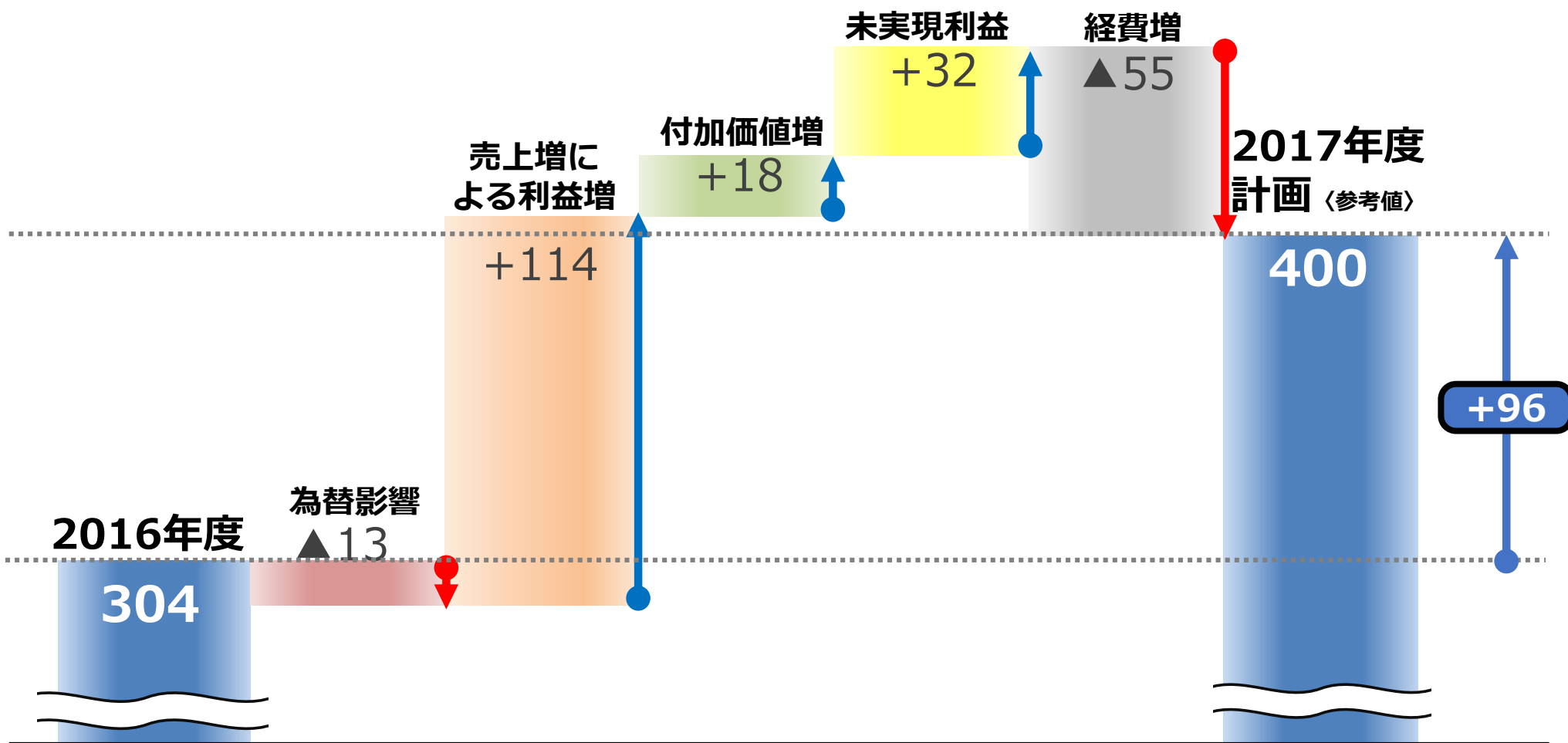
決算期変更による影響額について

- ・ 2017年度より決算期を『3月20日』から『2月末日』に変更による影響額は下記の通り

		決算期変更前			決算期変更後		
2017年度 通期見通し (億円)		上期 計画	下期 計画	年度 計画	下期 計画	年度 計画	差違
売上高		2,135	2,165	4,300	2,005	4,140	▲ 160
(M)	モーションコントロール	1,015	995	2,010	960	1,975	▲ 35
(R)	ロボット	770	800	1,570	765	1,535	▲ 35
(S)	システムエンジニアリング	245	255	500	175	420	▲ 80
	その他	105	115	220	105	210	▲ 10
営業利益		197	203	400	173	370	▲ 30
(M)	モーションコントロール	143	128	271	123	266	▲ 5
(R)	ロボット	66	68	134	61	127	▲ 7
(S)	システムエンジニアリング	▲ 3	15	12	▲ 2	▲ 5	▲ 17
	その他	▲ 2	▲ 1	▲ 3	▲ 2	▲ 4	▲ 1
	消去または全社	▲ 7	▲ 7	▲ 14	▲ 7	▲ 14	0
経常利益		202	208	410	178	380	▲ 30
親会社に帰属する当期純利益		133	137	270	117	250	▲ 20

営業利益増減要因分析（2016年度 → 2017年度計画〈参考値〉）

（単位：億円）



2017年度における取り組み（1）

➤ コア事業における収益力強化

・ 重点市場へのリソース集中による拡販加速

➔ 海外事業の自動車・3C市場拡販

- ・ アライアンス強化による自動車分野の売上拡大
- ・ マンパワー投入による3C市場のシェア拡大

➔ IMM(事業横断)制度による市場別攻略の強化

- ・ 食品／中食分野における事業創出の加速
- ・ 半導体市場の攻略強化

・ 新市場, 新事業領域の開拓

➔ インバータ「ゼロシリーズ」ラインアップ拡充による新市場の開拓

- ・ クレーン向けなどの用途特化製品による中国市場攻略

➔ 人協働ロボット・小型6軸ロボットによるアプリケーション創出

- ・ ACサーボモータ事業の販売網活用によるセクトメカへの拡販

・ 既存領域のシェア拡大, 収益性向上

➔ インバータ・ロボットを中心とした新製品への切替加速

➤ 開発力・生産力・販売力の継続的進化

・ IoT, AIを活用した安川版インダストリ4.0の具体化

➔ 次世代BTO生産に対応したソリューションファクトリーのコネクト確立

インバータ ゼロシリーズ



人協働ロボット
MOTOMAN-HC10



マトリクスコンバータ
U1000

2017年度における取り組み（2）

➤ 環境・エネルギー分野の拡大

・大型風力発電向け電気品の受注拡大

- ➔ スイッチ社を通じた中国・欧州を中心とした継続拡販
- ➔ 新製品投入による次世代量産機の受注獲得

・太陽光パワコン事業のグローバル展開

- ➔ 新製品のグローバル市場投入・拡販

・中国 奇瑞安川電駆動系統有限公司の立ち上げ

- ➔ 中国 奇瑞安川電駆動系統有限公司での量産開始

・船舶ドライブシステムの受注拡大

- ➔ バルチラ社(フィリピン)とのジョイント創出による拡販

➤ 新規ビジネスへの取り組み加速

・医療・介護・福祉事業の展開（協業強化）

・ベンチャー投資活動の本格展開



大型風力発電用コンバータ・発電機



EV向けモータードライブシステム



ベンチャー投資情報のサイト開設

4. 参考資料

設備投資、研究開発費、為替状況

◆設備投資の状況

(単位：億円)

	2015年度	2016年度	2017年度計画
設備投資額	167.6	149.1	200.0
減価償却費	130.6	120.8	130.0

◆研究開発投資の状況

(単位：億円)

	2015年度	2016年度	2017年度計画
研究開発投資	168.2	179.8	180.0

◆為替状況

(単位：円)

	2015年度			2016年度			2017年度想定
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
対 米ドル	121.9	119.8	120.8	107.1	109.6	108.4	110.0
対 ユーロ	134.3	131.8	133.0	120.0	118.4	119.2	115.0

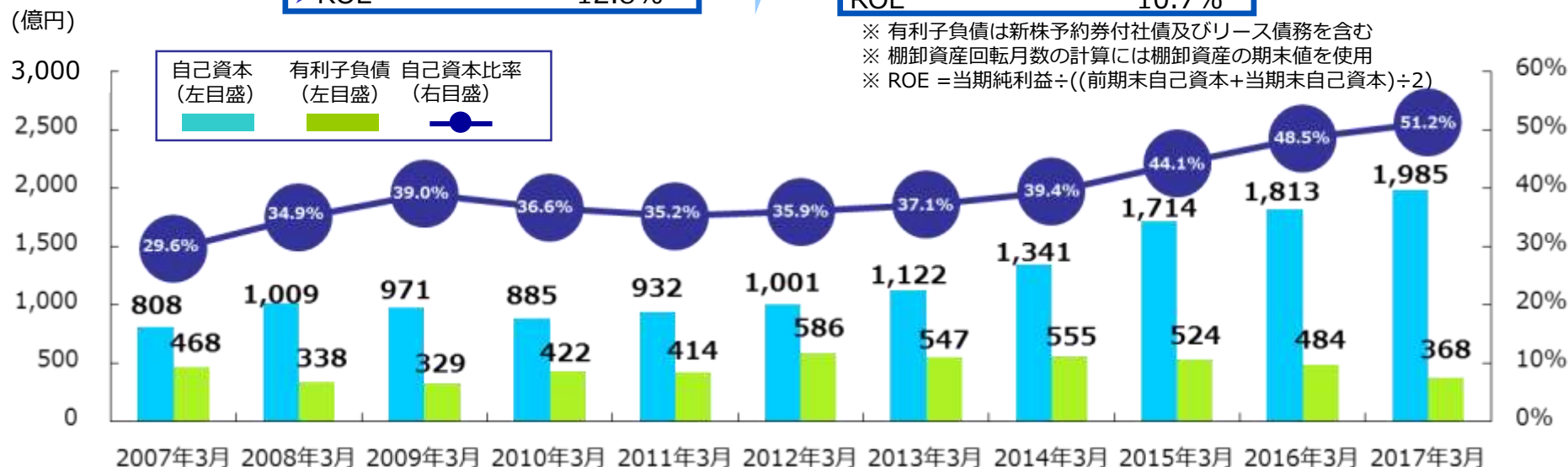
B/S 構造の推移

2016年3月20日時点

- 自己資本比率 48.5%
- 自己資本 1,813億円
- 有利子負債 485億円
- D/Eレシオ 0.27
(ネットD/Eレシオ) 0.09
- 棚卸資産 775億円
(回転月数) (2.3ヶ月)
- ROE 12.8%

2017年3月20日時点

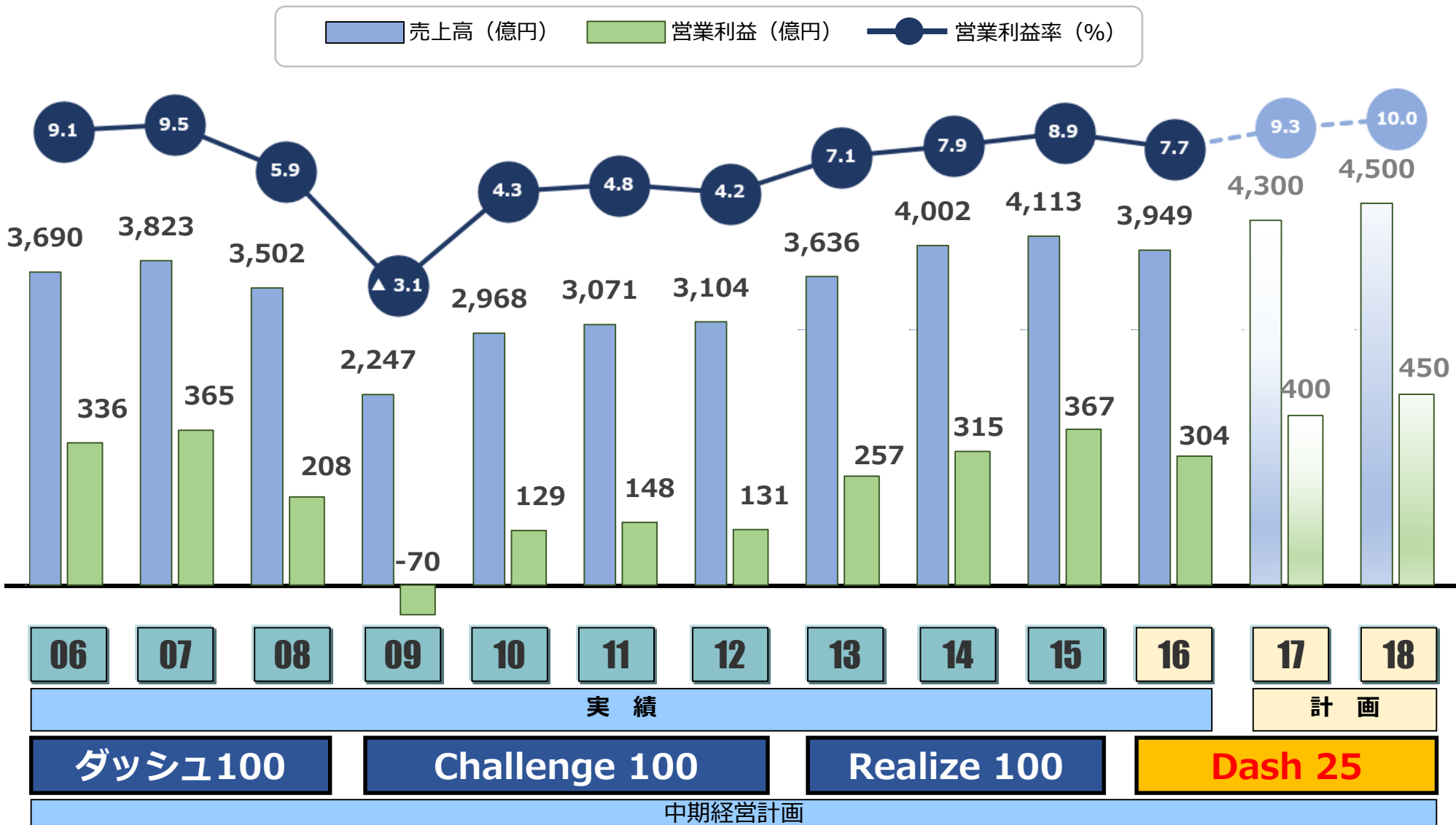
- 自己資本比率 51.2%
- 自己資本 1,985億円
- 有利子負債 368億円
- D/Eレシオ 0.19
(ネットD/Eレシオ) 0.04
- 棚卸資産 799億円
(回転月数) (2.4ヶ月)
- ROE 10.7%



※ 有利子負債は新株予約券付社債及びリース債務を含む
 ※ 棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用
 ※ ROE = 当期純利益 ÷ ((前期末自己資本 + 当期末自己資本) ÷ 2)

営業CF	150	177	125	40	25	64	246	240	290	320	338
投資CF	▲61	▲99	▲107	▲65	▲67	▲119	▲181	▲169	▲279	▲224	▲189
フリーCF	89	78	18	▲24	▲43	▲55	66	70	11	95	148

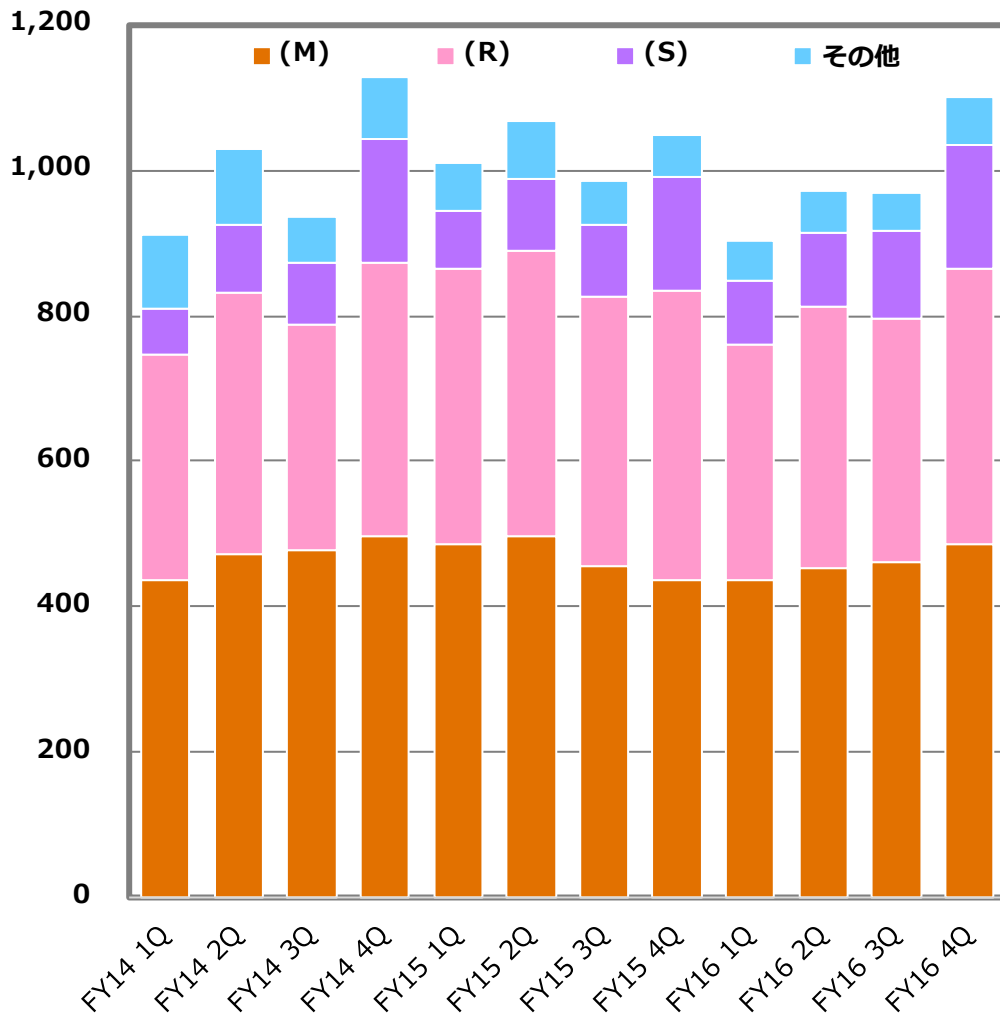
連結売上高・営業利益推移（2006年度～2018年度計画）



四半期連結売上高推移

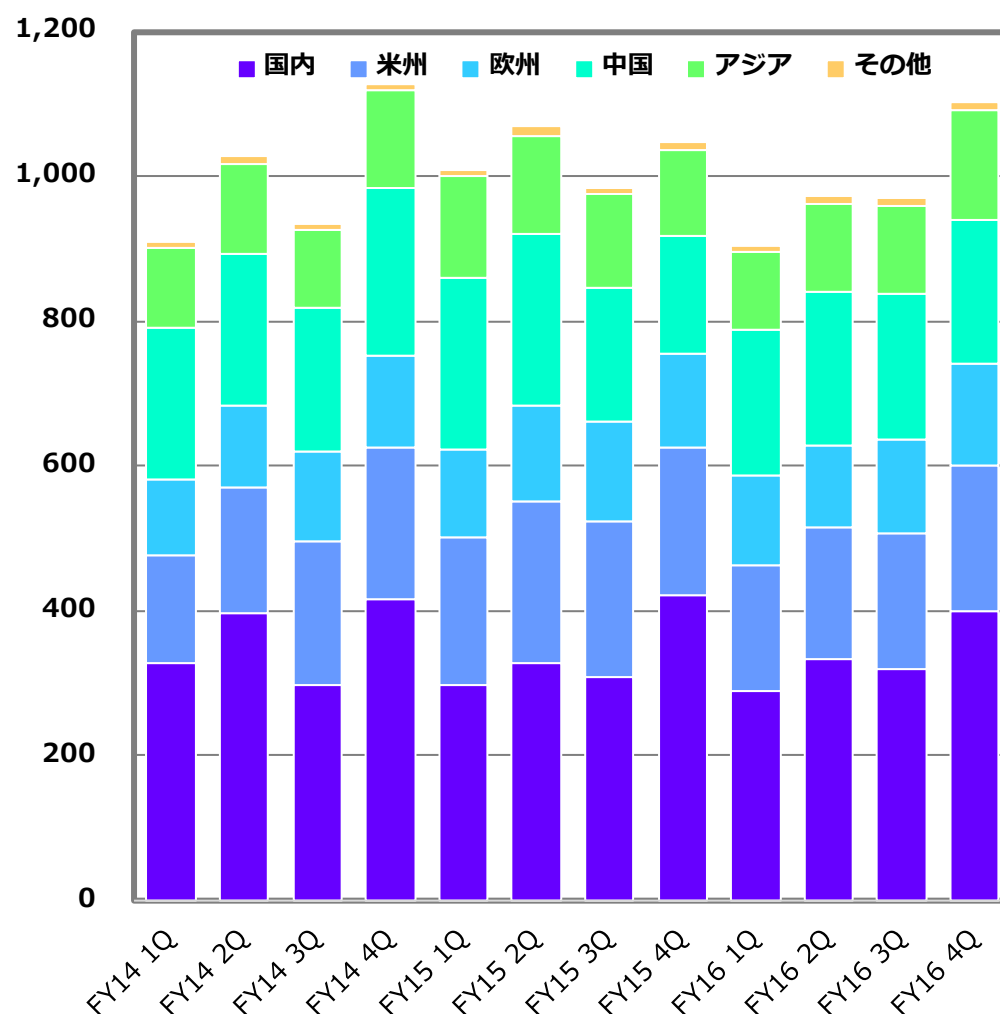
(億円)

セグメント別



(億円)

仕向先別

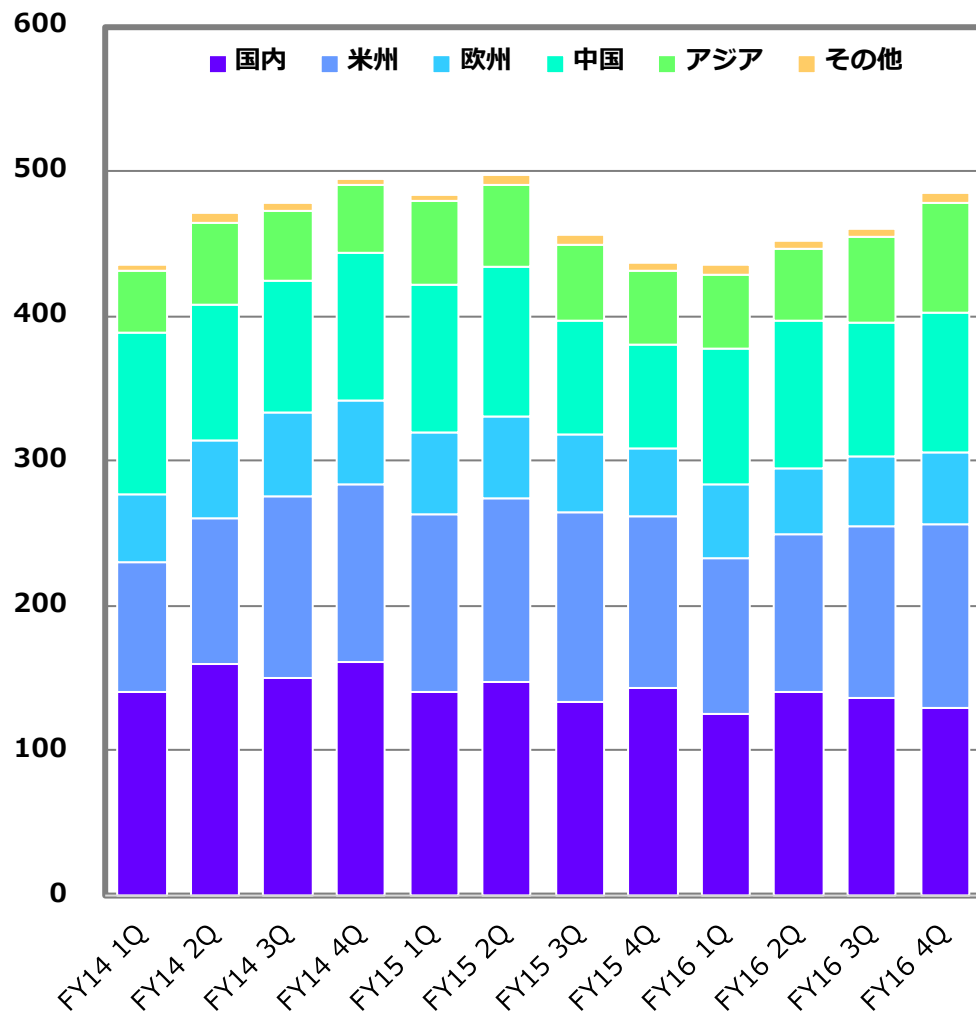


[注] 表記：(M) = モーションコントロール、(R) = ロボット、(S) = システムエンジニアリング

四半期連結売上高推移

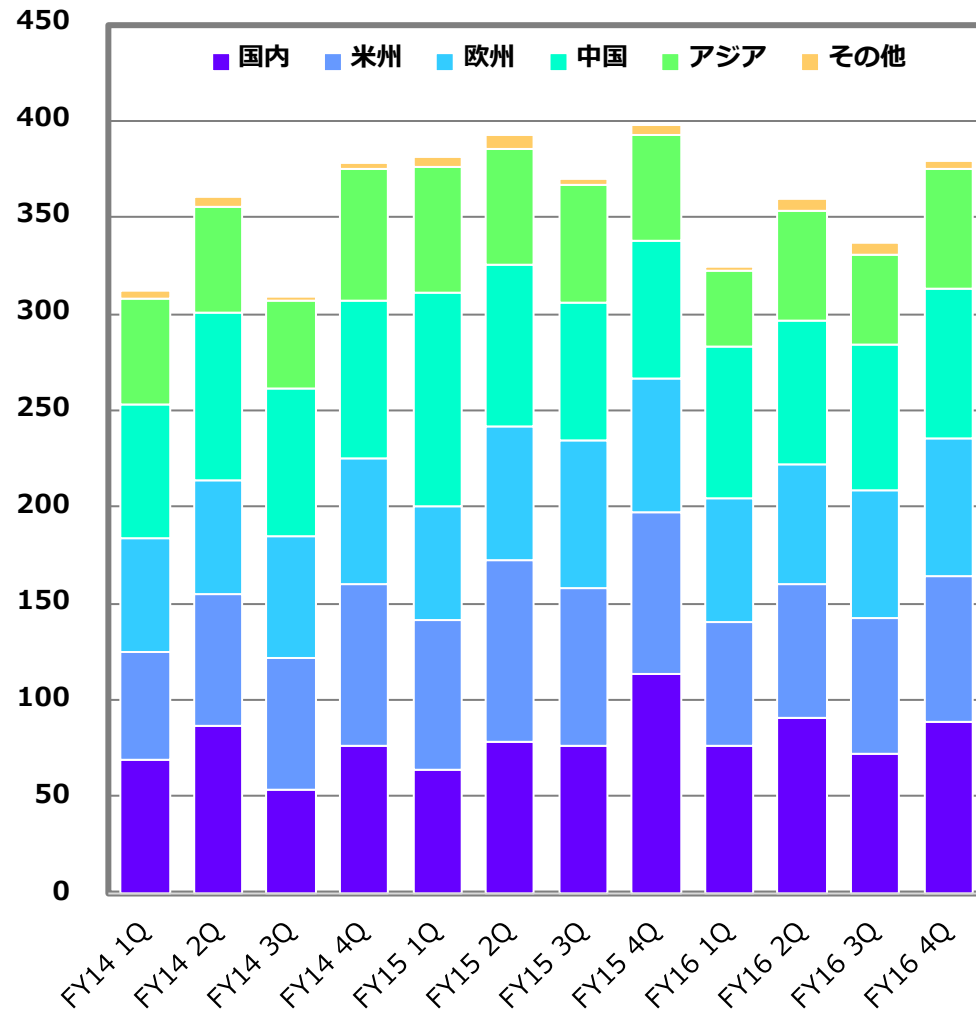
(M) モーションコントロール

(億円)



(R) ロボット

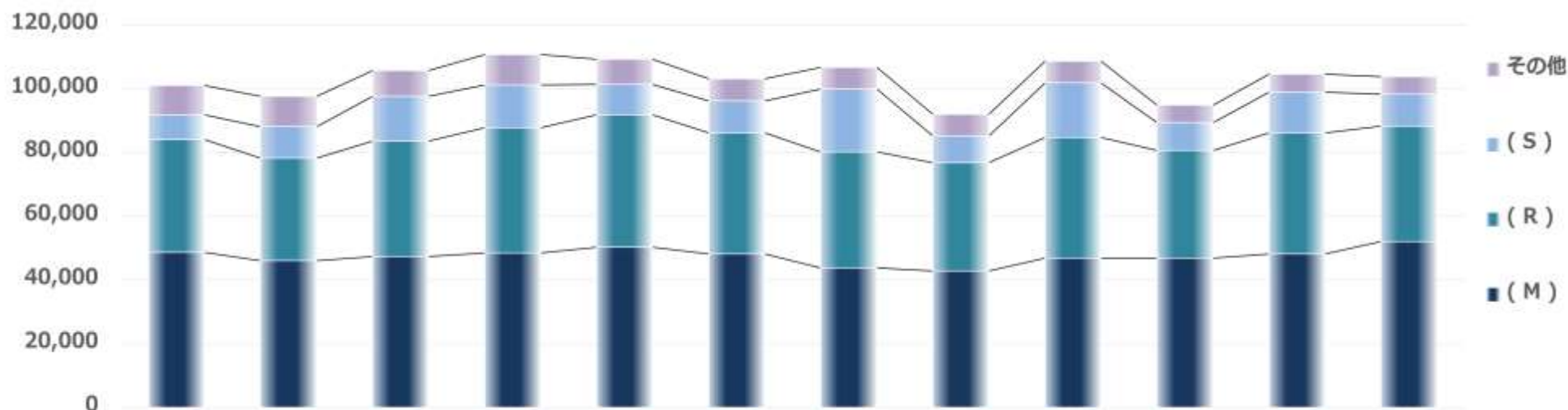
(億円)



四半期連結受注推移

※為替は期中平均レートを使用

(百万円)



		FY2014				FY2015				FY2016			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
全社	YoY	+11%	+15%	+15%	+30%	+8%	+6%	+1%	▲17%	▲1%	▲8%	▲2%	+13%
	QoQ	+18%	▲3%	+8%	+5%	▲1%	▲6%	+3%	▲14%	+18%	▲13%	+10%	▲1%
YoY	(M)	+11%	+23%	+20%	+22%	+3%	+5%	▲8%	▲12%	▲7%	▲3%	+10%	+22%
	(R)	+22%	+10%	▲2%	+30%	+17%	+18%	+1%	▲14%	▲9%	▲11%	+5%	+7%
	(S)	▲3%	+1%	+58%	+60%	+23%	+3%	+40%	▲37%	+78%	▲13%	▲36%	+19%
QoQ	(M)	+22%	▲5%	+3%	+3%	+3%	▲4%	▲9%	▲2%	+9%	▲0%	+3%	+8%
	(R)	+18%	▲9%	+12%	+9%	+6%	▲8%	▲4%	▲7%	+12%	▲11%	+13%	▲5%
	(S)	▲7%	+26%	+44%	▲5%	▲28%	+5%	+96%	▲57%	+103%	▲48%	+44%	▲21%
為替 レート	円/ドル	102.2	102.3	110.0	118.4	120.2	123.5	121.0	118.5	110.8	103.5	104.8	114.5
	円/ユーロ	141.0	137.9	139.8	140.0	131.2	137.4	133.9	129.7	124.5	115.6	115.3	121.5

[注] 表記：(M) = モーションコントロール、(R) = ロボット、(S) = システムエンジニアリング

主要生産拠点



YASKAWA